

平成29年度全国学力・学習状況調査結果（中学校）

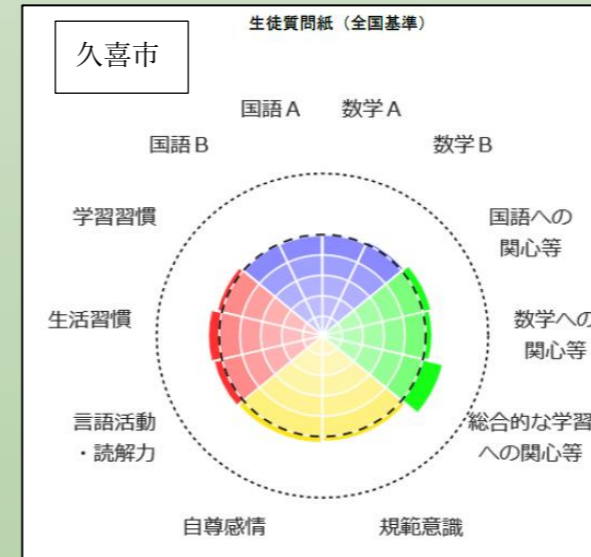
中学校・国語

区分	国語A			国語B		
	久喜市	埼玉県 (公立)	全国 (公立)	久喜市	埼玉県 (公立)	全国 (公立)
全体	77	76	77.4	72	72	72.2
領域別	話すこと・聞くこと	75.2	74.0	75.4	73.4	71.7
	書くこと	85.0	84.4	85.7	61.5	60.6
	読むこと	71.8	71.6	73.8	71.1	71.4
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	76.9	76.0	77.2	39.2	41.4
問題形式	選択式	78.0	77.3	78.5	80.0	79.3
	短答式	74.0	73.1	75.1	82.5	82.6
	記述式	—	—	—	56.6	55.5

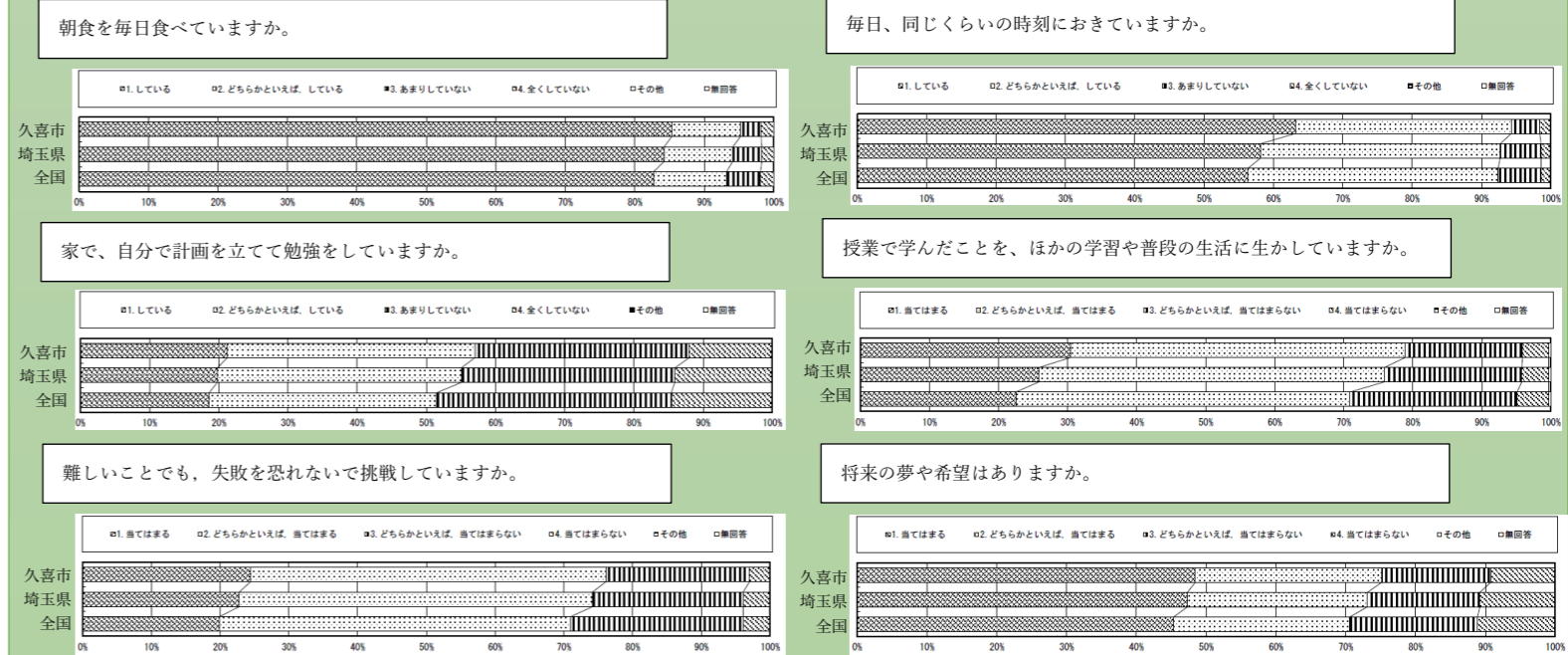
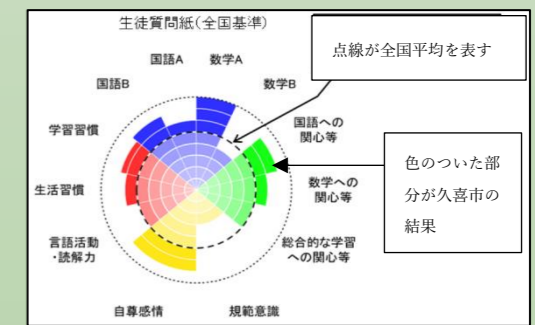
中学校・数学

区分	数学A			数学B		
	久喜市	埼玉県 (公立)	全国 (公立)	久喜市	埼玉県 (公立)	全国 (公立)
全体	65	63	64.6	49	48	48.1
領域別	数と式	69.9	68.9	70.4	45.5	44.6
	図形	67.6	65.2	66.0	48.8	47.4
	関数	56.2	55.5	57.4	52.5	50.0
	資料の活用	59.5	57.3	57.6	48.9	48.9
問題形式	選択式	67.5	66.0	66.8	54.5	54.0
	短答式	63.5	61.9	63.4	67.6	65.5
	記述式	—	—	—	22.0	21.2

中学校・質問紙



チャートの見方



◆成果と課題 (○：成果 ●：課題)

○成果 (○：全国平均を上回った ▼：全国平均を下回った)

国語	平成28年度 全国平均正答率 との差	平成29年度 全国平均正答率 との差
国語A「目的に応じて資料を効果的に活用して話す」	▼0.7	○0.2
国語A「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」	▼0.9	○1.3
国語B「文章の構成を捉える、文章を構成する」	▼2.2	○0.8

数学	平成28年度 全国平均正答率 との差	平成29年度 全国平均正答率 との差	
全体 数学A	▼0.7	○1.6	
領域	数学A「図形」	○0.1	○1.6
	数学A「資料の活用」	○0.4	○1.9
	数学B「関数」	▼0.0	○1.7
問題形式 数学A「選択式」	▼0.7	○0.7	

これらの項目は、**昨年度から改善傾向が見られるもの**である。特に、数学においては、A問題では全体的に改善傾向が見られ、B問題では**全体的には昨年同様、全国平均を上回る結果**となった。昨年度の課題を受けて、地域・保護者を含め各校の献身的な取り組みの成果と言える。

●課題

国語においては「楷書と行書との違いを理解すること」「場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解すること」、数学においては「二元一次方程式の計算」「比例・反比例の意味とグラフ」「資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を説明すること」を課題として取り上げる。